

女性外来

Q&A

女性が病気になるた時に、パートナーや家族にできることはどんなことでしょうか？

A 例えば妻が体調を崩して夫がケアする場合、お互いに理想像を押しつけてしまうというのはいくらも見られますね。その場合、パートナーや家族の方を含めて診察を行うこともあります。健全なコミュニケーションのためには、今の相手をそのまま受け入れてあげ、相手に自分の理想像を押し付けていないことです。そして、相手の中にある治る力を信じてあげることが大切です。

体調を良好に保つために必要なことを教えてください。

A 日常から夫婦間、家族間でコミュニケーションを保つことは、とても重要です。相手を受け入れ、お互い支え合っていくことが健康につながるのです。

- 一般的な健康診査は、各医療保険が実施していますので、毎年受診するようにしましょう。詳細は『加入している医療保険者（勤務先等）』にお問い合わせください。
- さいたま市では、がん検診等、健康の相談や生活習慣病予防のための運動・栄養教室などを実施しています。お住まいの区保健センターにお問い合わせください。

生涯にわたって健康な生活を営むために

性差医療とは、病気だけを診るのではなく「一人の体と心全体をとらえ、性別それぞれに合わせた行方診療」といえます。そしてがんについては、今回は乳がん検診についてご紹介しましたが、女性特有のがんとしては子宮がんが挙げられ、男性では前立腺がんの罹患者が近年増加しています。日本人の死因の1位であり、3人に1人が亡くなるといわれるがんは、発症場所を問わず検査による早期発見が重要となります。

さいたま市では、市民の皆さんの健康づくりを推進するため、各種健康診査等を受けやすい環境づくりや、健康教育・保健指導を進めています。男女が健康を維持し協力して生きていくためには、女性、男性ともに互いの性を理解することが必要です。健康であるということは決して自分のためだけではなく、パートナーや家族のためにも大切なことなのです。

※参考：厚生労働省 厚生労働白書（平成21年版）

取材を終えて

●通信員 小山田京子さん
市民の皆さんにこのような施設があるということを知ってほしいですね。



●通信員 小林二美さん
性差医療などの取り組みが、さいたま市をはじめ全国でもっと広がっていくことを期待します。



●通信員 宝珠山敬彬さん
男性の目から見ても、女性外来は今後しっかりと根付いてほしいですね。



乳がんの検査方法

検査方法としては、問診、触診をはじめ、乳房を圧迫してX線で撮影するマンモグラフィ、超音波を当ててその反響を映像化し内部の状態を見るエコー検査、組織を抽出して調べる組織検査などがあり、診断によって適切な検査が行われます。

定期的な検診で早期発見を

がんの発症は30代から多くなりま

す。そのため30歳を過ぎたら、最低1年に1度は検査を受けることが望ましいです。乳がんは1cmになるまでおよそ7年かかるといわれ、進行は比較的ゆるやかとされています。検査を定期的に受けていけば早期発見が可能ですので、罹患した場合、腫瘍が小さいうちに見つけることが重要です。検査を受けることに不安や抵抗を感じる女性も多いですが、発見が早ければ早いほど乳房の切除の度合いも少なく、完治する率も高くなりますので、パートナーや家族の方からも検診を勧めましょう。



乳房をX線で撮影する装置・マンモグラフィ

人ごとではない乳がん

パートナー・家族のためにも早期発見を

女性に多くみられる病気の代表が乳がんです。男性でも乳がんの罹患率はありますが、発症数からみても女性特有の病気といえます。しかし「さいたま市健康についての調査報告書」によると、乳がんの検査の受診率が低くなっているのが現状です。さいたま市民医療センターの乳腺・内分泌外科科長である山田太郎先生に乳がん発症の現状、検査方法、早期発見の重要性などについてお話を伺いました。

成人女性に一番多い病気―乳がん

乳がんというのは乳房にできるがん、成人女性に一番多くみられる病気です。年々患者数は増加し、日本乳癌検診学会の最新の発表では、日本女性の18人に1人が発症し、77人に1人が乳がんによって亡くなるという結果が出ています。

死亡率は先進国では減少、日本では増加

乳がんでの死亡率は、アメリカなど先進国では減っていますが、日本では罹患率とともに死亡率も増加する一方です。先進国で死亡率が減った理由として、検診の受診率が高いことが挙げられますが、日本では先進国に比べ受診率が低いのが現状です。

